

子ども・若者の孤立を防ぐ～コミュニティユースワーカーの取組



小澤いぶき氏

NPO法人PIECES代表理事
児童精神科医／東京大学先端科学
技術研究センター客員研究員

新潟大学医学部医学科卒業後、精神科医を経て、児童精神科医として複数の病院で勤務。トラウマ臨床、虐待臨床、発達障害臨床を専門として臨床に従事し、さいたま市の「子育てインクルーシブモデル」立ち上げにも携わる。医療職として従事する傍ら、2013年頃から地域活動を始め、2016年6月にNPO法人PIECESを設立。2017年には、世界各国のリーダーが集まるザルツブルグカンファレンスに招待を受け、子どものウェルビーイング達成に向けたザルツブルグステイメント作成に参画。Japan women's leadership initiative 10期フェロー。

孤立した子どもに新しい関係をつくる コミュニティユースワーカー事業

「親はいるけど、頼ることができない」

「人を信用することができない」

孤立している子どもたちはその背景に、虐待やいじめ、神経発達症、不登校、貧困などによる様々な課題を抱えています。そのような課題を抱えているときに鍵となるのが、「信頼できる他者」に出会えるかどうか、ということです。私たちPIECESは、「信頼できる他者」となるため、「信頼できる他者」との出会いを一つでも多く作るため活動しています。孤立した子どもたちの日常に寄り添い自立までをサポートする大人（コミュニティユースワーカー）の育成を行い、孤立の解消と予防に取り組んでいます。

NPO法人PIECES ● <http://www.pieces.tokyo/>

子ども学校プロジェクト

子どもや教育・学校に関心を持つメンバーが集まり、「地域の教育をよりよいものにしたい！」「それなら自分たちで学校をつくりたい？」といった思いを語り合いながら、学びと交流を深めるプロジェクトです。

2017年度は運営メンバーが世話人を務めて、教育や学校について考えるイベントをプロデュースし、そこで集い、考えながら、さまざまなアイデアを出し合う「学校をつくりたい仲間たちのスタディ・ミーティング」を不定期に開催しています。

昨年12月には、NPO法人セカンドリーグ茨城との共催で、カナダ、オンタリオ州のアドボケイト、アーウィン・エルマン氏の招聘にも取り組みました。

学校をつくる、という視点で、子どもの権利擁護とウェルビーイングの実現に向けた教育のあり方を考えています。

子ども学校プロジェクト

<https://www.facebook.com/groups/962688897199236/>



310食堂

310食堂はまちの縁側です。
必要な人は誰でも参加できます。

みんなで食卓を囲み、おしゃべりを

することで、まちを大家族にする試みです。

貧困家庭だから、とか、虐待があるから、とか、子どもだから、とか、分けていくことなく、誰もが来られる場所でありたい。そして、利用者とボランティアの垣根も取り払って、お年寄り子どもも、若者も、お母さんも、お父さんも誰もが大切にされ、誰もがその人らしくかわり続けることのできる居場所でありたいと思います。

310食堂は毎月第三土曜日11:30～14:00

310食堂

<https://www.facebook.com/310syokudo/>



NPO法人セカンドリーグ茨城

誰もが安心して暮らせる地域づくりのために、
地域の資源をつなげ「協働型社会」を実現します。

